

「2022 台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部 3年 横尾大貴

学習成果としましては、オンラインではありますが、個人的に初めての海外留学の経験となりました。母語である日本語を全く使わずに、中国語のみで進んでいく授業に対して、最初はついていくのに精一杯でしたが、授業を受けていくにつれて、また、予習復習を繰り返して知識を蓄えることによって徐々に余裕ができ、積極的に発言する回数も増えていったように感じます。母語である日本語、また第一外国語である英語、そのどちらでもない言語を学習する手法を学びえたように感じています。具体的には、習った単語や文法をできるだけ早く使って見ることです。また、言語以外にも、台湾の文化（季節ごとの行事、台湾で流行っているもの、台湾の歴史、日台関係）についての理解を深め、日本の文化（アニメ、流行しているもの、日本の気候や名所）について自ら発信することができました。

プログラム内容としては、事前中国語教室・台湾大学での中国語の授業・チューターステーション・文化学習がありました。まず、事前中国語教室では京大生の台湾人留学生の方に中国語を習いました。ここでは、できるだけ日本語を使わずに授業を受ける訓練をしました。また、言語学習の取り組み方についても教えていただきました。台湾大学での中国語の授業は上でも述べていますが、自分のレベルにあった授業で、中国語の文法や単語を学びました。淡々と教科書を進めるのではなく、少し横道にそれて、それぞれの経験や日本と台湾の違いを交えて話すことによって、とてもアクティブな中国語の授業になりました。また、チューターステーションでは、台湾大学の学生と課題に取り組み、さらに年齢も近いことから、より親密な会話ができたと感じています。チューターステーションでは、特に自分のおすすめの食べ物やおすすめの方法について説明する練習をしました。自分は清水寺の四季がいかに美しいか、京都の時代祭りがどのような祭りかを写真を交えながら中国語で説明しました。文化学習では、台湾のお寺や行事、食事や博物館などについて学びました。オンラインのために、実際に見てみるということは叶いませんでしたが、次回台湾に行く機会があれば、今回文化学習で学んだ場所を訪れてみようと思いました。

進路への影響について、自分は将来法曹を志望していますが、仕事をするに当たって、海外の案件（とりわけ中国語文化圏）を得意とするような法曹になりたいと思います。また、ぜひ機会があれば台湾の大学にオンラインではなく実際に留学したいと思っています。

最後に、今回留学という貴重な機会を与您いただきました、国際交流課の皆様、多文化共学短期留学プログラム事務局の皆様、各先生方、そしてクラスメイトに感謝を申し上げます。